

検査選択のフロー（院外用）

【がん遺伝子パネル検査の適応】

- ・固形がんである
- ・予後3か月以上と判断でき、PSが0～1である
- ・標準治療が終了している。または最終治療中である

はい

組織検体での提出が可能である。
又は再採取できる。
(ブロックでの提出不可)

いいえ

- ・標準治療が終わってない方は標準治療継続へ
- ・緩和の方針へ

※固形腫瘍の腫瘍細胞を検体とすることが原則であり、例外的に血液検体での提出が可能

はい

いいえ

病理組織事前診断への申し込み
※がんゲノム外来受診の流れ（組織検体検査）へ

不明な点がある場合は、担当医に問い合わせをすることがあります。

検体適当

検体不适当

【選択できる検査】

- ・FoundationOne CDx
- ・NCCオンコパネル

【選択できる検査】

- ・GUARDANT360 CDx
 - ・Foundation One Liquid CDx
- 但し、以下のチェックリストが満たされるものに限る

- 病理検体が3～5年以上経過しており、侵襲的な場などにより、腫瘍組織検体の再採取が不可能である。
- 検査提出までの1か月間、化学療法を行っていない。
- 現在の治療が奏効していない。
- 患者にFoundationOne Liquid検査で得られる結果は、治験情報が少なくなる可能性がある旨を説明している。

上記のチェックリストが満たされない場合は検査への申し込みの再検討をお願いします。

5-1 がんゲノム外来受診の流れ
(組織検体検査)

5-2 がんゲノム外来受診の流れ
(Liquid検査)

※一度提出して検体がDNAの品質不良などで結果が得られなかった場合のみ、組織検体、またはLiquidの再提出が可能。